

活動報告書

報告者氏名: 武内美佳

所属: 和歌山県立みくまの支援学校

記録日: 2015年2月8日

【対象児の情報】

・学年 高等部1年 女子

・障害名 低酸素脳症 知的障害

・障害と困難の内容

- ・表出言語はなく、楽しいことなどは笑顔、怒りなどには怒った表情をする。また、嫌なことに対しては目を閉じて拒否を示す。飲みたくない・食べたくないときには口を開けない。人を呼んでいる時、眠い時、怒っている時など喃語のような発声が聞かれる。何を訴えたいかを声の高さの違いで表現しているが、判断しにくいことがある。
- ・左片麻痺のため、左手の使用がほとんど見られない。
- ・聴覚優位。視覚障害の診断はないが視力は弱く、見え方についてははっきりと把握ができていない。
- ・座位保持姿勢や立位練習時など本人が楽しみながら取り組める活動がなく、拒否を示すことが多い。

【活動目的】

・当初のねらい

- ・因果関係のとらえを明確にする。
- ・楽しいと思えることを増やす。
- ・意思の表出を分かりやすくする。

・実施期間 2014年4月中旬より2015年2月上旬まで

・実施者 武内 美佳 ・ 望月 信吾

・実施者と対象児の関係 学級担任 ・ 自立活動運動動作分野専任教諭

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・右手小指にiPadが触れるように提示すると、自分から手を伸ばし遊ぶことができる。
- ・左手を右手から離すと、右手を左手の方へ動かしている。
- ・iPadと同様にビックマック（VOCA）を提示しても同じように手を伸ばす。しかし、音声をオフにしても何度も押しているため、押した時になる『ガチャッ』という音や、押すことで凹む感覚を楽しんでいると思われる。
- ・他者から関わり（くすぐり）があると、もっとくすぐって欲しいと伝えるかのように、首や視線を動かす様子が見られる。
- ・車椅子に座っている時には常に右手で左手を触っている。左手を触ることで安心できるようである。うつ伏せになると、積極的に頭や足を動かして遊んでいるが、横向きや仰向けになっている時には時間を持て余してしまう。すぐ近くに人がいると自分から手を動かして叩き、叩かれた人が『痛っ』と反応することを楽しんでいる様子が伺える。
- ・水分補給時、声をかけたり、下唇につる首ボトルの先を当てたりすると口を開ける。
- ・給食時、食べたい時や次が欲しい時には口を開けて待っている。

・活動の具体的内容

【活動目的】に示した3つのねらいを達成するために、下表に示す2つの活動を計画、実施した。

どちらも、車椅子座位や腹臥位など取り組みやすい姿勢や、端座位、起立台での立位などの姿勢課題の場面で取り組んだ。取り組みの時間は1回20分程度、週1～2回行った。期間は4月中旬～2月上旬までの10ヶ月間である。

活動	右手の手元に置かれた iPad を操作して遊ぶ	iPad に録音された音声を使って教師を呼ぶ
時間帯	自立活動、休憩時間	自立活動、休憩時間
活動場所	運動動作学習室、教室	教室
姿勢	車椅子座位、端座位、起立台での立位、腹臥位	車椅子座位
指導の手立てなど	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad の位置を徐々に変えて、動作や行動の様子を観察する。 ・ 起立台使用時には大型 TV へ iPad の画面を映す。 ・ 大型 TV は対象生徒が一番見えていると思われる右前方に提示を行う。 ・ iPad からの音より、廊下や隣の教室から聞こえてくる音（咳払いやくしゃみ、大きな声など）に反応することが多いため、小型スピーカーを使用して音声を拡大する。 ・ スピーカーの位置を変えることで、音への反応を観察する。 	<p>①水分補給時（休憩時間）のお茶を要求させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ「vocaco」に「お茶をください」のメッセージを録音してそばに置く。 ・ 水分補給時に、お茶を与えるのを少し待って、発信を引き出す。 <p>②設定した場面で iPad を使って教師を呼ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ「vocaco」に「先生」と呼ぶメッセージを録音してそばに置く。 ・ 設定した場面で、教師から声掛けをせずに待ち、発信を促す。 ・ 呼ぶことができたなら、対象生徒の好きなくすぐりを楽しめるようにする。
使用アプリなど	 <p>（どのアプリも画面に触ることで、画面の変化があったり、音が発したりする。）</p>	 <p>（VOCACO アプリ）</p>

・活動時の様子

○「因果関係のとらえを明確にする」について

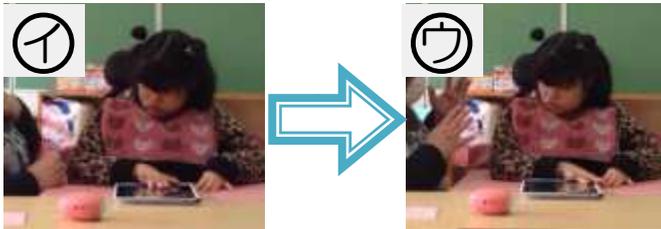
- ・iPadに触れ音が鳴ると、繰り返し触る。
- ・アプリをTV画面に映すと頭と視線を動かす。(写真㉗)
- ・TVの画面を消して、音だけにすると手の動きが力強くなる。

○「楽しいことを増やす」について

- ・iPadから音が出ると笑顔や、活発な手の動きが見られる。
- ・iPadの位置を動かすと、自分から手を動かしてiPadを探索しているような動きが見られる。

○「意思の表出を分かりやすくする」について

- ・アプリの中に録音してある教師の声に反応している。
- ・iPadから音声が流れると、教師の方に頭と視線が動いている。(写真㉘㉙)



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づきとエビデンス

	主観的気づき	気づきに関するエビデンス
①	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad に触ると音が出るのが分かっている。 ・ iPad に触れると画面が変化するということが分かっているかは不確か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad を TV 画面に映し、音が大きくなるとそちらの方に頭や視線を動かしている。 ・ 音が消えると手の動きが【とんとん】→【バンバン】に変化。(TV の【消音】機能を使用) ・ スピーカーを使用し、スピーカーの位置を変えていくと、頭の向きを動かしている。視線の変化は見られない。(写真㊦㊧) ・ TV の音はそのまま画面だけを消した際、動きに変化が見られなかった。(TV の【消画】機能を使用)
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad で遊ぶことが楽しいと思えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は立位練習をすることを伝えたり、装具を触らせたりすると目をつぶって拒否をしめすことが多かったが、最近では笑顔を見せるようになった。 ・ iPad を見ようとすることで、ヘッドコントロールの力がつき、頭部保持をサポートするワイヤーを外すことができた。 ・ 立位練習、端座位練習の取組時間が長くなった。 ・ iPad を触るために、側彎方向とは逆の姿勢を受け入れ、手を伸ばすなど、新しい動きが引き出された。(写真㊨) ・ iPad がない状態で左手を右手から離すと、以前と変わらず右手を左手の方まで動かしていたが、iPad があると iPad の方へ手を動かしていた。(写真㊩)
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad で音声を発することで、教師が反応することに気付いている。 ・ 要求を伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad を触った後、教師がいる方向に頭と視線を動かしている。 ・ 教師が反応すると笑顔を見せる。 ・ 水分補給時、iPad を触った後口を開けることがあった。 ・ 給食時 (iPad 不使用)、右手を叩くように動かしていた。給食を口に運び入れると、手を止め、嚥下した後再度叩き始めた。給食を口に運ばない時は、近くの机や教師の足を叩くような動きがあった。



・その他のエピソード(画像などを含めて)

・iPad で遊ぶためや探すために手を積極的に動かすことが増え、右手の活動範囲が拡大し、これまでには見られなかった手の動きが見られるという変化があった。(写真㊦ 手首を持ち上げた状態で手を裏返すことがなかった。)



・まとめ

iPad は手軽にTVに映したり、スピーカーを繋げたりすることができ、音声や画面を拡張することができたので、対象生徒の反応をよりはっきりと引き出すことができた。因果関係のとらえを明確にする目的をはじめ、すべての目的で生徒の行動観察が行いやすかった。また、iPad はアプリを使用することで様々な音を楽しむことができるため、聴覚が優位でくしゃみや咳などの突発的な音や大きな声、音楽が好きな対象生徒にとって、自分で触ることでそれらの音を出すことができることが、楽しいと感じたのではないかとと思われる。そして、楽しい活動ができるという期待から、苦手な姿勢保持の練習にも意欲的に取り組めるようになったと考える。さらに iPad は提示位置を自由に変えることができるので、対象生徒が一番触りやすい右手の手元から徐々に離していくことで、好きな音を鳴らそうと iPad を探すために右手の動きがより活発になったと思われる。

今後は、楽しいと思えることを広げつつ、意思の表出を分かりやすくしていきたいと考えている。今年度はお茶のみで行った実践だが、すごく喉が渇いていると思われる時は積極的に iPad に触れることができたが、あまり喉が渇いていないと思われる時には自分から iPad に触れることが少なかった。「水分補給をしなくてもいい」という対象生徒の意思を組むこともできるが、家庭ではジュースで水分補給をしており、1回に飲む量がお茶よりも多いと保護者から連絡を受けている。このことから、対象生徒の好きなジュースを使うことでより明確な意思を伝えられるようになるのではないかと考えている。また、車椅子から降りている時に寝返りを利用して、好きな遊びができる iPad のある方へ向きを変えることができるのではないかと考えている。